

CSO開発効果第2回世界大会報告

■会議の概要

日時：2011年6月28日～30日 場所：カンボジア シェムリアップ

主催：Open Forum for CSO Development Effectiveness/CCC（カンボジアのネットワークNGO）

参加者：70カ国以上、230名以上のCSO・政府関係者、OECD等の参加。（政府関係者：カンボジア政府、韓国のKOICA、アイルランドのハノイ大使館、ポーランドの外務省、オランダのバンコク大使館、アメリカ大使館など）

目的：第1回世界大会で採択されたCSO開発効果国際枠組みの8原則を踏まえ、CSO開発効果国際枠組みを最終化し、12月の釜山ハイレベルフォーラムに政治的な声明として提示すること。

背景：2010年9月に開催されたCSO開発効果第1回世界大会、日本を含む74カ国のナショナルコンサルテーション、9回の地域別ワークショップを踏まえたうえで開催。

■会合の内容

1. CSO 開発効果の国際枠組み（第3版）の概要について

- ・CSO 開発効果国際枠組み
- ・CSO 開発効果国際枠組みは、8 原則及びガイダンス、アカウンタビリティのメカニズムの強化、CSO が活動しやすい政策環境づくり（政府の政策と実践）から構成。
- ・3 日間の討議を通じて、CSO 開発効果国際枠組みが「シェムリアップ・コンセンサス」として合意された。
- ・CSO 開発効果の実践のための普遍的な規範だが、CSO 版の「パリ宣言」という位置づけではなく、またアカウンタビリティ基準に代わるものではない。
- ・CSO 開発効果国際枠組みの最終版は、7 月末頃までに Open Forum のウェブサイトで公開予定。

2. CSO 開発効果の国際枠組みの第2版からの主な変更点

- ・独立した「ガイドラインと指標」のセクションを設けるのではなく、各原則と「ガイダンス」を一緒にしたセクションを設けた。また具体的な指標はツールツールキットに含める方向で作成中。またより具体的なものは各地域や国の文脈にあわせてそれぞれのCSOが設定していく必要がある。
- ・アカウンタビリティ・メカニズムの強化のセクションを設けられた。アカウンタビリティの唯一のモデルはなく、既存のアカウンタビリティ強化のための様々なツールを活用することが重要であることが確認された。
- ・CSO 開発効果国際枠組みを実践するためのツールキット、及びCSOが活動しやすい政策環境づくりのためのアドボカシー・ツールキットを作成中。

3. CSO が活動しやすい政策環境づくりの主な議論のポイント

- ・事例として、カンボジア、アフリカ、ラテンアメリカのケースが発表された。カンボジアの事例では、カンボジアにおけるNGO法の改正の問題が発表。NGOの登録を義務付けるNGO法に反対するCSOの声明は、既に650団体以上が賛同の署名。日本大使館を含む各国政府も一

定の懸念を表明。カンボジアにおける表現の自由や結社の自由が脅かされる危険性あり。

- ・ パリ宣言は指標があるのでモニタリングしやすいものの、アクラ行動計画は指標がないのでモニタリングがしにくいという認識のもと、政策環境づくりの促進のために具体的な指標設定をする必要があるという議論がなされた。主な論点は第1にマルチステークホルダー・ダイアログの重要性が指摘された。DACのCSO開発効果作業部会が釜山 HLF までに活動を終える予定だが、その後も継続してマルチステークホルダー・対話を行うべきである。第2に人権ベースのアプローチの重要性が議論され、各国政府の人権関連諸条約の遵守を含む人権基準の促進と開発効果をより強く結びつけて考えるべきだという指摘があった。
- ・ アジアグループのディスカッションでは、CSOの支援スキーム、政府及びビジネスセクターとの対話の必要性、CSOの社会的認知、CSO及びドナーの透明性と説明責任、政府がNGOを統制しようとする動きの問題（NGO登録含む）などについて討議された。

4. 釜山 HLF に向けた CSO による声明（別紙参照）

BetterAID（政府機関の援助効果向上に関するアドボカシーを行うためのNGOのネットワーク）がOpen Forumと協力して作成。以下の4点を主張。

- （1）民主的なオーナーシップに基づきパリ宣言とアクラ行動計画を深めると共に、評価すること。
- （2）人権を促進する開発協力をすることによって開発効果を強化し、貧困と格差の原因を解決することに焦点をあてること。
- （3）CSOを独立した開発アクターとして認識し、CSOの参加を保障すること。また、イスタンブール原則に賛同し、CSO開発効果国際枠組みの実践ができるよう、CSOが活動しやすい政策環境を整えること。
- （4）公平で公正な開発協力の構造を促進すること。第4回 HLF において、期限を定めた釜山コンパクトを設定し、開発協力の国際的なガバナンスを改善すること。

■ 今後の予定

2011年9月10日～12日 CIVIUS 世界大会@モントリオール

2011年11月26日～28日 国際市民社会フォーラム@釜山（CSOによる釜山 HLF のプレイベント、KOFID、BetterAid、Open Forumによる共催）

2011年11月29日～12月1日 釜山 HLF@釜山

<参考：CSO 開発効果国際枠組みの8原則>

1. 人権と社会的正義を尊重し、推進する。
2. 女性と少女の人権を推進し、ジェンダーの平等と公平性を実現する。
3. 人々のエンパワメント、民主的オーナーシップと参加に焦点を当てる。
4. 環境の持続可能性を推進する。
5. 透明性とアカウンタビリティを遵守する。
6. 公平なパートナーシップと団結を模索する。
7. 知識を創出、共有し、相互学習に関与する。
8. プラスの持続的変化の実現に寄与する。

以上